

2026年9月24日

各 位

会 社 名 株式会社HANATOUR JAPAN
代表者名 代 表 取 締 役 社 長 金 尚 昱
(コード番号：6561 東証グロース)
問合せ先 執行役員経営管理部長 田中 一彰
(TEL. 03-6629-4755)

よくある質問と回答 (2026年12月期第2四半期決算)

日頃より、当社への関心をお寄せいただきありがとうございます。2026年12月期第2四半期決算開示後に投資家の皆様から頂戴した主なご質問とその回答を下記の通り開示いたします。

なお、本開示は投資家の皆様への情報発信の強化とフェア・ディスクロージャーを目的として、四半期に1回開示するものです。回答内容につきましては、本開示時点を基準としつつ、投資家の皆様に回答した内容を踏まえて記載しております。

Q1. 第2四半期累計の業績について、計画に対する進捗状況を教えてください。

旅行事業は、中国政府による日本への渡航自粛や中東情勢等の影響があったものの、概ね想定範囲内で推移しております。ホテル事業は、Tマークシティホテル札幌が営業終了したものの、札幌を除く既存3ホテルでは想定を上回る利益を確保しております。

一方、バス事業では受注競争の激化等により計画を下回っております。秋以降は、韓国の旧盆であるチュソクや10月上旬の連休等に伴う需要の増加が期待されており、これらを踏まえ、現時点では通期の業績予想および配当予想については据え置いております。

Q2. 訪日外客数が高水準で推移している一方で、当社が減収減益となっている理由を教えてください。

訪日市場全体では、2026年7月の訪日外客数が約344万人となり、7月として過去最高を記録するなど、需要は底堅く推移しております。一方、当社の業績は訪日客数全体だけでなく、地域別の構成、団体・FITの構成、ホテル販売単価等の影響を受けます。

第2四半期累計では、中国市場の低迷、中東情勢、関西圏を中心としたホテル販売単価の低下に加え、バス事業における受注競争の激化やTマークシティホテル札幌の営業終了が影響し、前年同期比で減収減益となりました。

Q3. 中国市場の今後の回復をどのように見ているのか。また、通期業績予想には回復を織り込んでいるのか教えてください。

現時点では、中国市場が今期中に本格回復することを前提としておりません。一方で、一部路線では航空便の増便に向けた動きも見られていることから、市場環境の変化を継続的に注視しております。

今期の業績予想についても、中国市場の回復を織り込まずに策定しており、他地域での販売拡大や各事業の収益改善施策を進めることで、通期業績予想の達成を目指してまいります。なお、今後、中国市場の回復が進んだ場合には、業績のアップサイド要因になると考えております。

Q4. 欧米豪からの訪日客を増やすための課題と、今後の取り組みについて教えてください。

韓国や東南アジアについては従来から継続して営業活動を行い、一定の成果を上げている一方、欧米豪は取引拡大の余地が大きいと認識しております。

今後は、海外旅行博覧会への参加や現地旅行会社への営業活動を強化するとともに、当社が運営するBtoB向け旅行商材販売サイトGorillaのAPI連携先の拡大や、新システムの活用を通じて、欧米豪のFIT需要を効率的に取り込んでまいります。

Q5. バス事業が計画を下回っている要因と、今後の対応について教えてください。

バス事業では、中国市場向け需要の減少を受け、中国人旅行者を主力としていたバス会社が韓国等の市場で低価格による受注獲得を強化しており、受注競争が激化しております。当社バス事業における中国人旅行者の構成比はもともと高くないため、中国需要減少による直接的な影響は限定的ですが、こうした競争環境の変化による間接的な影響を受けております。

今後は、認定された独自料金を活用し、収益性と価格競争力の両立を図るとともに、安全性やサービス品質を維持しながら、国内旅行、空港送迎、航空会社クルー送迎、One Day Tour等の需要開拓を進め、稼働率の向上と収益源の多様化に取り組んでまいります。

Q6. 旅行・バス・ホテルの3事業をグループで展開することのシナジーについて教えてください。

当社グループは、訪日外国人旅行者に対して旅行手配、移動、宿泊をワンストップで提供できることを強みの一つとしております。旅行事業で獲得した需要をバス・ホテル事業につなげるとともに、各事業で得た市場情報を共有することで、商品造成や販売の柔軟性を高めることができます。また、ホテル事業は、良好な立地条件と安定した宿泊需要を背景に、適切な価格・コスト管理を行うことで、比較的安定した収益を確保できる事業であり、バス事業とあわせて旅行事業を補完し、グループ全体の持続的な成長を支える役割を担っております。

Q7. Tマークシティホテル札幌跡地の今後の活用方針について教えてください。

Tマークシティホテル札幌については営業終了後、予定通り解体を進めております。跡地活用については、ホテルとしての再開発を優先的な選択肢として検討しております。

一方、規模の大きい投資案件となることから、事業性や投資効率等を慎重に精査し、親会社とも協議を進めております。方針が決定し、開示すべき事項が生じた場合には速やかにお知らせいたします。

Q8. 新システムの進捗状況と、今後の業績への貢献について教えてください。

FIT対応強化を目的とした新システムについては、5月のプレローンチ後に現地旅行会社から寄せられた意見・要望を踏まえ、当初次フェーズで予定していた一部機能を前倒しして開発しております。本システムにより、FITの行程作成、見積り、手配等の業務を効率化し、これまで人的対応では大量に処理することが難しかった欧米等におけるリアルエージェント経由のFIT需要を取り込んでいく方針です。

今期は大きな利益貢献を前提としておらず、来期以降の収益化を見込んでおります。また、新システムに加え、既存システムの機能改善、サーバー環境の見直し、日常業務へのAI活用等を進め、業務効率化を図ることで、取扱高の拡大と収益性向上につなげてまいります。

■最新の決算情報や株主総会関連資料はこちら

・ IR ウェブサイト：<https://hanatour.japan.jp/ir/news>

・ 2026年12月期第2四半期決算短信：<https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS71113/587647a9/ed5a/4d89/8c92/a6a4ef3e35f2/140120260813519796.pdf>

・ 2026年12月期 第2四半期決算説明会資料：<https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS71113/f1799d92/67b0/46de/ae3c/e9812725d802/140120260820524004.pdf>

以上